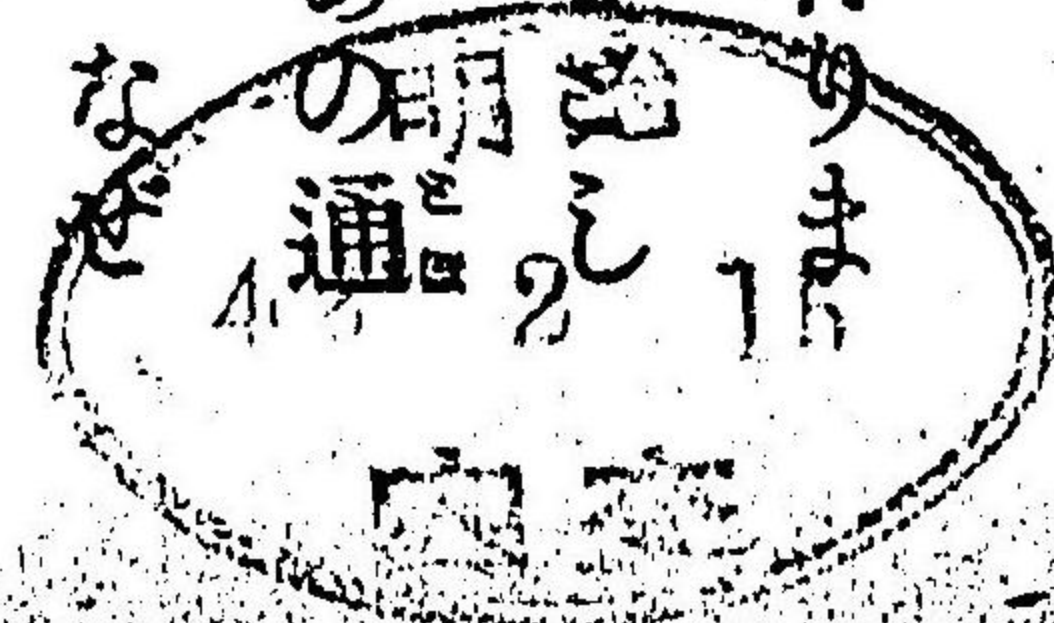


宗教早わかり 序 文

特18
706

新聞の三面欄を見まするご毎日人殺しや盗人や喧嘩で持ち切つて有りま
す。それが各縣各種の新聞に出るので。假令少しは同じ材料がある
ても各縣毎に多少の相違がある。それが警察へ掛つたもの計りであ
りであるから。小さい事件を加へたらごの位になるか分りません。な
世間にはこんなに罪人が多いで有りませうか。是皆宗教道徳が發達しな
いから來ることであります。宗教道徳さへ發達すれば法律の罪人はこん
なに澤山出る譯はないので有ります。凡そ宗教道徳の罪人が高じて法律
の罪人となるのであるから。まだ法律の罪人にならぬ内に早く宗教道徳
で押へて仕舞はねばなりません。去れば宗教道徳は本で法律は末とい
ても差支ないのであります。法律執行のために費す金を宗教道徳のため



に費したたら却つて効能が有るであらうと信じます。能く世間には出獄人保護會社といふものがある。一寸考へると監獄から出て来る様な人間には碌なものはない。そんなものを世話をしたつて効能もあるまい。世話をするならモット良民の世話をしたら宜しからうと思ひますが。併し出獄人を保護するといふは一面良民を保護する譯になるので。若し此出獄人を捨て置けば信用もなく資本もないから又々悪事を働くに相違ない悪事をすれば良民の害になる。依つて良民を保護するためには。一面悪人をも保護せねばならぬのである。悪人でも善人でも日本國民である以上は。大きく言へば一家族である。悪入の一舉一動は悉く善人の頭にかゝつて来るのである。世にはこれに注意せぬ人がある。彼處へ泥棒が這入つた此處で賭博をやつたと只對岸の火災の様に思ふが。それが一々警察に關係し其警察費は良民の頭へかかるのだ。斯く悪人の舉動は良民の負

擔に關するのだから悪人を救ふといふ事は世間一般でやらねばならぬことである。夫れが世間にある保護會社の様に只金銭で救ふのみではいけません併せて宗教道徳を以て心の中迄救はねばなりません金銭で救ふは一時的のもので宗教道徳で救ふは未來永劫であります。斯く宗教道徳といふものが悪人を救ふ方便である以上は國民一般で宗教をやらねばならぬ。此の道徳を守り宗教を奉ずるといふ事は。自身を救ひ人を助けるためである。大きく言へば國家のためである。去らば警察費を負擔することと思つて宗教のために盡力し玉へ。それも間接には國家のためである。殊に宗教は道徳よりも一層効力の多いもので此宗教をさへ盛んにすれば必ず罪人は減つて來ます。道徳を盛んにしても罪人は減りますが宗教の方が今一層効力があらうと信じます。其譯は道徳の方では只一通り親には孝行せよと兄弟は仲よくせよと現在の事を教へるのみであるが。宗

教の方では今一步進めて孝行せなければ斯うなるか。仲よくせなければ斯くせらるゝか。死後の裁判を教へるのである。例へば佛教では閻魔大王を作りてこれに死後の裁判権を握らせ。地獄へ落すか極樂へ廻すか。生殺與奪の權を任せてある。又キリスト教では神の裁判を立て。信者は天國に入るか。未信者は下界に漂泊ふか。甘く理窟をつけてある。嘘か真か未定問題としても兎に角道德の様に通り一遍のもでない。夫ゆる宗教の方が屹度効力が多いに相違ない。去れば世の中を太平にするには第一宗教を盛んにすべく。第二道德を盛んにすべきもので。法律を振り廻すなどは抑も末の末なるものである。殊に今日の様に生活が困難なつては強いものは人を殺し弱いものは自らを殺す。中々法律ばかりで制裁はやり切れません。依つて此の際宗教道德を盛んにして此の犯罪を未萌に防いで成るべく法律を煩はさぬ様にせねばならぬ。

未萌に防ぐは道德でも出来ませうか安心立命を與へる事はごうしても宗教に據らねばなりません。去れば道德は人を善心に導くもので。宗教は其上に更に慰安を與へるものであります。故に法律よりは道德が大切に
あるが。道德よりは宗教の方が重いと言はねばならぬ
そこで宗教はこの宗教に據りませうか。今や我國は信教自由であります
憲法二十八條にナヤンと規定されて有ります。舊幕時代の様に宗教が一定しては居りません。改宗する事は自由自在であります。治安に妨害なき宗教ならばこの宗教に入るも勝手であります。撰り取り見取りごいふ有様である。今世界に行はるゝ宗教に就いて末文に一口づゝ書き立てゝあるから能く／＼研究して信仰に入り玉へ。世には兎角無神論者がありて無宗教でもつて押し通さうとするが。それは到底出来ない相談であります。順境の時はそれでもよからうが萬一病氣とか火難水難其の他不幸

に遇つて見玉へ。ごうしても世には自分より以上のものが有つて自分を助けて呉れるがやうに思ふ。是れが抑も宗教心の起りである常にはごんなに強がる人間でも一朝戦場に臨んで見玉へ思はず知らず神佛の力を借る氣になる。昔の軍人の兜の八幡座は大抵お札で埋まつて居たさいふごとである。彼の東郷大將でさへいつも天佑に依つてご書き出した天の佑けがなくては何事も出来ぬ。有るご思へばこそやり切れるのである。兎に角宗教には據り玉へそして一日も早く慰安を得玉へ。世界に行はるゝ宗教の種類は千差萬別さいふ程で少くも百を以て數へる程あるが。今日西洋人の言ふ三大宗教はユダヤ教キリスト教マホメット教であります。又東洋人の言ふ三大宗教はキリスト教マホメット教佛教であります。西洋人は佛教を省き日本人は佛教を加ふ西洋人の佛教を除くは多神教であるから有る。日本人の佛教を加ふるは其の行はるゝ區域の大小によ

るので有ります。然し何れも日本で出来たものでないから日本人の人情風俗には適せぬ。佛教などは弘法大師が出てから餘程日本風に改良したごまだく適せぬ處が澤山ある。キリスト教などは今渡つて来たばかりである。それに西洋人には日本の人情風俗が分らぬ。その西洋人の助けを受けて下働きに甘んずる日本の宣教師などはこれを日本的にする力がない。日本キリスト教などは多少日本的だが。それでもまだく完全せぬ。ユダヤ教などはまだ這入つて来ない。去れば寧ろ外國出来の佛教やソ教等を奉ずるよりも日本に始まつた天理教に據り玉へ。これは日本人の意向に適して居る決して差支ない宗教である。凡そ一宗起すには随分世間の批難は受ける。其受ける所に直打があるのだ。見玉へユダヤにキリスト教の起つた時を。教祖キリストは磔にかゝり使徒ポーロとペテロの二人はローマ皇帝ネロのために西紀六十年頃虐殺された。其他キリス

ト教を奉ずるものは大抵迫害を蒙つたものだが。ソレでも信徒の決心強く一難來る毎に一勇加はりごとく西洋を風靡して今や日本迄渡つて來た。又マホメット教の起り初めも豫言者故郷に用ゐられずこやらで。メツカの人民に迫害されてごうくメヂナへ逃亡した。此逃亡は西洋紀元六百二十二年で。今でもヘジラ（移轉の義）として紀念する。此ヘジラがマホメット教の紀元元年だ。其のマホメットは十年にして死んだが。それでも其の法嗣の哈利發といふものは何處迄も教祖の意を繼いで。教祖去つて後二年目には巴にダマスクを占領した。又三年にしてエルサレムを陥れヘルシヤの首府迄占領した。其の傳播の速な事は丁度天理教の發達の様だ。一宗を開くには必ず迫害を受ける。これを押し通せば必ず成効する。佛教とても其の通りだ。釋迦に提婆といふ事を言ふが提婆も決して惡物ではない。必ず婆羅門の先達に相違ない。斯く婆羅門の反對

を受けたが到頭やり抜けて今日に及んだ。我日本にも其例がある。法然上人は土佐に流され其の弟子親鸞は佐渡に流された。日蓮上人はもつと苦んだ。或は小松原の遭難龍ノ口の御難。或時は伊豆に流され或時は佐渡に流されたが。到頭やり抜けて日蓮宗を開いた。一宗開くには此の位の苦勞はある。天理教が是迄冷評されたり世間から色々の批難を受けたが。是はキリストが猶太人にいちめられ釋迦が提婆に苦められたと一般で。外道の迫害は何時でもある。此處を切り抜けて獨立したのは中々太した手柄である。最早冷評時代は過ぎ去つた。是から先は布教時代だ。日本に要求する宗教はこれで有つた。是迄この宗教が起らなかつたからそれで止むを得ず印度宗教を訂正して無理に日本人に押しつけた。西洋の宗教が乗り込んだりしたが最早日本を風靡する程の一大宗教の要素を備へた天理教が起つた上は先づ是で安心だ。宜しくこれに據りて

慰安を得べしだ。世間の冷評位苦に病んでこれに入る事の出来ないものは勇氣がないと言ふべきだ。研究せずして冷評するのは喰はず嫌ひごいふもので餘り褒めた咄でない。先づ試みに世界の宗教を一寸一口づゝ巻末に並べて置くから是を讀んだ上で一讀し玉へ決して見落さぬ様希望します。依て歴史にあらはれた宗教は。ユダヤ教キリスト教佛教祇教マホメット教。ヤソ教分れてギリシア正教ローマ正教尙又分れてルーテル派ケングリ派カルビン派。佛にユীগノー英に監督派。或は清教徒となり分離となり。スコットランドに長老派となり抵抗派に反對してエスイタ教起り其他ケーカー派ベチザクト派。フランスシスカン派ドミニカン派チストリウス派にゾラスタ教。パール教にマホメット教。佛教化して嗽嘛教起り。唐に行はれたるが祇教景教。日本に入つて奈良朝時代に。三論法相華嚴成實俱舍津宗行はれ。天台眞言は平安朝に起り。淨土曹洞臨

濟眞宗法華時宗は鎌倉時代に越り黄檗宗が徳川時代に起り。王政維新後キリスト教來り。今又茲に天理教起る

其の得失を較べて見れば

(佛教 缺点)

お經の文句が分らぬ

佛法は深いとか意味深遠だとかいつも僧侶が看板に掲げて居る併し自身は其の理を知らんのだ。僅かに庭の草取りをし乍ら。師匠から口移しにお經の文句を教へられた位で。如是我聞とは何の事か。一時佛住王舍城とは何の意味やら分らない。只注ぎこまれた丈けが無意識的に出て來るので。恰も蓄音機同然だ。況んや陀羅尼などは皆目分らん。分らぬ事を並べて矢鱈に有がたがる。葬禮でも施餓鬼でもその通りだ。如何に舊慣

こは言へ能く濟んだものだ。同じ分らぬ乍らも耶蘇教の聖書の方がまだ分る。尤もお經は分らぬ處に値打があるので。若し分つたら何でもないのだ

僧侶は智職が乏しい

徳川時代には耶蘇教を苦しめた。其の方便として佛教を保護した。御朱印地を興へ宗門帳を持たせ。生活を豊かにし攻め道具を握らせたから。それで僧侶が安逸に馴れて。高僧大徳といふものは一人も出ませんでした。明治初年は僧侶は教導職で有つたが。今は時勢後れて社會から教導される。丸で被教導職となつて仕舞つた。實業も出來ず教導も出來ぬものを。何のために尊敬する必要あるか。只死人を取扱ふのみならば葬禮屋であつて宗教家でない

僧侶は不品行だ

葷酒山門に入らずこか肉食妻帯を禁ずるこか。表向きの看板は立派だけれども。葷酒の入らぬ山門はなく梵妻の居ない寺院はない。庫裏で赤子が泣く立關におむつを干す。女人禁制の高野山でさへ去年さうく梵妻を許した。ソレだから眞宗で笑つて居る。曰く眞宗では肉食も妻帯も許してある。ソレでも肉食を慎み妻帯を禁ずるものがある。他宗では肉食妻帯を禁じて置きながら肉食もすれば妻帯もする。それなら一そ止めない方がよい。止めてこれを破らするは違背者を多くする所以である。それに梵妻となるものは大抵不品行だ。結婚を誤まつたものかお轉婆のなれの果てかだ。他の良家へ縁づく事が出來るので。最後の手段で梵妻となるので。それがお得意の手練手管を振り廻すので。さうく和尚を誤らしめる。故に如何なる高德の和尚も。梵妻を入れると忽ち墮落する。

此の点に於てはキリスト教の宣教師は比軟的慥さうてよい

僧侶は奮發力が少ない

日本は二萬七千餘方里人口五千余萬人である。ソコへ耶蘇教が繰り込んで來て年々蠶食する。已に改宗者が三十萬人だといふ。併し耶蘇教も日本の風俗に適せんので其の擴張は中々手間取るが。兎に角布教費を外國から持ち込んで倦まず撓まず布教するので。必ず年々何程か増加する。そこへ天理教が出て四百餘萬の信徒を得た。是は日本の教へであるから其の傳播も甚だ速かである。斯くキリスト教やら天理教に喰ひ込まれるで佛敎の範圍は縮まるばかりだ。斯ういふ時には一大英斷を行つて勢力挽回を計らねばならぬ。然るに僧侶は舊習を墨守して更に進取の氣象を出さぬ。偶々此氣慨ある若僧あるも階級を重んずる僧侶間の事さて老僧の勢力に壓倒せられて一つも手腕をあらはす事が出來ん。改良のつくは

茲二三十年後老僧連が棺を蓋うて學林育ちの若僧連が漸く世に出る時であらうか。其の時分には天理教徒が日本宗教界の半ば以上を占める時だ

革新者の出現を望む

溜池も溜るご腐敗する。時々掃除して清潔法を行はねばならぬ。佛敎界も其の通りで。昔は行基菩薩弘法大師傳敎大師等が世に出て大に佛敎を日本的にした。それから法然上人日蓮上人一遍上人榮西禪師道元和尚等世に出て大に佛敎を擴張したが。徳川時代に入つてから改畧上より、餘りにこれを保護したので僧侶日増に安逸に陥り名僧知識は一人も出ない。それから引きつゞいて明治の今日迄別段頭を上げた僧侶は出ない。雲照律師や井上圓了等が此の節ごうやら尊敬されるが。其の他は大抵役割の争ひやら本山の争ひで持ち切つて居る、奈良の大佛は修繕に苦しみ。宇治の黄檗山は什物賣り出しを初め東本願寺は時々差し押へを喰

ふ。以上何れも徳川時代に餘り保護が厚かつた故に。安逸に馴れた結果である。徳川將軍といふ後見人は。四十餘年の昔に於て已に政權を奉還したるに。僧侶が今以て目が覺めず御朱印地時代を夢みて居る。それ故こんな見じめを見るのだ。早く一大高僧が出て、佛敎界を革新して。ルテールが基督敎を革新したる如く宗喀巴が喇嘛敎を改良したるが如く。一大革新者の出現を望む。若しも革新者の出現が後れるか或は出現しても老僧連の障害に遇は、佛敎の前途も甚だ心細いものとなる然らば

耶蘇敎の缺點

は如何といふに。佛道の傳播が二百六十年もかかつたことするに耶蘇敎の傳播も百年位かゝる。今や多數の外國宣敎師に多數の日本牧師があるが外國の宣敎師は日本の人情風俗に通じない。又日本の牧師は多くは没常

識だ。縱令少しは分つた人が有つても。教會の費用が自給が出来ぬ。多くは外人の補助による故ごうしても外人の機嫌を取らねばならぬ。故に日本的にしたくもする事が出来ぬ。日本的にせなければ廣まらぬ。丁度行基や空海の出る前奈良京の佛敎と同一である

磔柱（十字架）

或人曰くキリスト敎はよい敎へであるアレに磔柱がなかつたら尙ほよからうといふたさうだ併しキリスト信者に言はせると磔柱があればこそキリスト敎になるのだ。キリスト敎から磔柱を取り去れば丁度鰻から膏を取つた様なものだと言ふ。成る程磔柱はキリスト敎に取つては大切のものだ。第一キリストが衆人に代つて一人で罪を背負つて天國へのぼつたご此柱で説明するのだ併しキリストは神の子であつて人より以上の超自然の力があるならばホンテナピラトの如きローマの代官位に磔にされる

理由がない此の磔殺には何か仔細が有りませう仔細がなくて磔殺されては神の超自然力が疑はれるに至るであらう

キリスト信者は經濟志想が少ない

日曜は神の日だ人の日でない。神が六日の間働いて七日目に一日休んだのだ。神を記念するため七日目を休めよ。骨休みとしては適當に相違ないが、貴重な骨休めを半日も教會へ引き出され。氣のつまる様な神の説教を聞かされる。聞かされるのはお勤めと思へば何でもないが、植付時ごか列入時ごか一日半時を争ふ繁忙時は。何ほ神のためでもやり切れない。日本の様な貧乏國でも今や世界の一等國となり。歐米諸國と對等の交際をなさんごするには。どうしても財産を作らねばならぬ。信心は徳の餘りといふから得の餘りにせねばならぬ。それを經濟を離れて朝から晩迄お祈りくでやり通すごは。どうしても經濟思想が足りないと思

ふ。丁度奈良朝の佛教同様。貴族的になりて什舞うて民間へ普及せぬ。是れを平民的にして經濟と合致させなくては。到底日本の宗教に適せぬ

佛祭りは大目に見のがせ

偶像崇拜は氣が利かないが。去りて長き習慣であるから。一朝一夕には廢せられぬ。まづ道側の道祖神や。其他名も知れぬ淫祠は廢するごしても。天神様や宗吾靈神は今暫く大切にせねばならぬ。假りに道眞や佐倉宗吾郎が今日此の世に存在するごすれば。誰れでも頭を下げるに相違ない。然らば其の靈を祭る天満宮や宗吾靈神を尊敬するに何の差支あるべきや。況んや我が家の祖先は我が家を起した我が家に取つては太切の人である。若し今日に存在すれば必ずこれを尊敬せねばならぬ。去ればいかにキリスト信者でも先祖祭りは差支なき譯だ。ソレを牧師共が偶像ご目して先祖祭りを廢せよといふは。餘り融通の利かない咄だ。支

那に布教した利瑪竇や湯若望や龐廻我は。孔子を祭るは俗事であるから敢て干渉は致さぬというた。夫ゆる明末から清初にかけて耶蘇教大に支那に行はれたものだ

以上

佛教にも耶蘇教にも如上の欠点がある。故に當分廣まらぬ。寺院は衰へるヤソ教は廣まらぬ。去りて日本在來の神道は活動せぬ。此の際日本人の精神界を救ふものは。恐らく天理教の外に無いだらう

(天理教の特色)

天理教の傳播

世間で何ごいいうても廣がる處が不思議だ。教祖去つて後十年餘にして。早や四百萬人の信徒がある。假りに日本人を五千萬人とすれば殆んど國民十二分の一に當る。ローマでコンスタンチン帝がキリスト教を國教と

したのが。丁度國民十二分の一に當つた時だ。天理教が獨立を許されたは普通の事である。慾を言へば國教にして欲しいが。併し日本では信教自由としてある。國教を定めるは憲法から改正せねばならぬ。これは出來ない相談であるから。獨立だけで充分として。只此の上は布教が第一である。秩序ある布教が第一である

日本人的宗教

どうしても日本には日本人的の氣象がある。此の氣象に基づいた宗教でなければ決して盛大になるものでない。假令日本で出來た宗教がなくても宗教思想は慥かに有つたのだ。夫ゆる儒教が渡來すれば忽ちこれと融合して准宗教を形作つた。強ひて命名すれば祖先教が出來たのだ。夫れが佛教徒の詭計にかゝつて三輪家と物部家と衝突し。三論家先づ亡んで物部中臣の世となり共に馬子の臣跡見赤檮の矢先きにかゝつて二家亡ん

て神道衰。其の後神佛同体説や本地垂迹説に瞞着せられたが。神道思想は決して消滅しない。徳川時代に至つて吉田の神道起り山崎闇齋の垂加流の神道が起り。金光教が起り黒住派が起つたが。また佛教を壓倒するに至りません。然るに茲に天理教が起つて天理人道を明かにしようとする是ぞ正しく日本人的宗教であつて。百年を出でないで日本を風靡するに至らうか兎に角宗教恢復の時節が到来したものと思はれる

潜勢力

氷雪を冒し寒風を凌いでこそ初めて梅の清節も見はれるので。天理教こそ其の通り。二三年前までは世間の冷評も受けたが。今や獨立も許され信徒も四百萬に上る。恐らく日本第一の宗教でありませう。假りに日本人口を五千萬としこれを日本の神道十二派及び佛教十餘派に分ては一派平均二百五十萬となる。天理教徒の四百萬人は。慥に平均點以上に

上る。それが慥かに二十年間に得たる信徒の數である。これから先きは利培増殖法だ。將に鼠算を以て殖ねんとして在る。假りに二十年間に四百萬を得たごすれば。今後二十年間には優に千萬人を得るであらう其の潜勢力こそ恐るべきものだ

皇室を尊崇す

佛教でも今上皇帝聖壽萬安と唱へ佛壇の正面に位牌が建てゝある。キリスト教でも聖公會などでは。皇室のために左の祈りをなす
 恩寵に富み玉ふ全能の神よ。我らの天皇皇后皇太子皇太子妃すべての皇室を祝し玉へ云々

何れの宗教も皇室を疎畧にするものは有りませんが。殊に天理教では皇室を中心としてあります。祈りの第一に皇室の尊榮を祝します。是れ即ち日本に出來たる宗教であつて。皇室を中心とする日本人思想から割

り出した宗教である故である。佛教などは印度で出来た宗教ゆる。日本の皇室などは夢にも知らないので。後世日本に渡來してから。皇室の保護を受け初めてから今上皇帝聖壽萬安なご。假りにおへつかを並べたのである

キリスト教さて其の通り。日本に出でたる宗教でないから。皇室といふも天皇といふも。固より日本の事でない。夫れを日本に渡來してから。日本の文字に翻譯した迄だ。皇室を尊崇する精神に至つては。天理教徒の右に出るものはない。いかに佛教にしても儒教にしても。皇室を中心とせぬものは日本に行はれません。夫れは日本人の精神に適さないからである。日本に出来た宗教でなければ。最初から皇室を中心としたものはありません。眞の忠義を盡さうと思はぶ。兎に角日本出来の宗教に依るべきである

基業地が宜しい

神武天皇様は大和に皇基を定めて。遂に日本全國を平定した。大和は政治の根本と言つても宜しい。去らば宗教も大和から起つて。遂に全國民を救ふに至りませう。嘗て人皇廿六代繼体天皇の世に。南梁の司馬達等は大和の阪田の原で佛教を説いた。是れ佛教の民間に入る初めだ。其の後欽明天皇十三年に。百濟の國から佛道の來た時も。矢張り朝廷は大和の國である。奈良朝佛教も大和に榮ゆ。行基菩薩も大和で働いた。役小角が修驗道を起したのも大和の國の葛城山である。久米の仙人が仙術を修めたのも。矢張り大和の久米寺である。どうしても宗教は大和から起るべきだ。果然天理教が大和に起つて。遂に日本全國に普及した。しかも世間冷評の内にドシク廣がつて。四百萬の信徒となつた。是ぞ人事でない全く神力である。神が教祖に憑つて世人を救ふものと思はれる。

若しも全國悉く天理教徒となつて。教祖の教へが行はれるに至るならば警察も裁判も閑となり。監獄などは空室となるに至るであらう。去らば教祖は眞の救世主であつて。信徒は一面政教を助けるものである。小にしては人心教化の道であるが。大にしては治國平天下の道である。此教へを奉ずるは已れ一人の慰安を計るのみでない。全く天下の慰安を計るのである。

信徒の熱心

信徒の熱心なるは眞宗とキリスト教であります。天理教の信徒はそれ以上である。此の宗教の外は。餘り熱心の信者は見ゆませぬ。只信者といふ名のみである。我が家は禪宗であるとか天台であるとか。先祖傳來きまつて居るものご心得。只何宗といふ迄で別に心から出た信者ではありません。こんな信者は無いも同様である。然るに眞宗は別物であつて

眞に熱心な信者であるが。其の行はれる範圍が狭い。尾濃三勢加能越。此七ヶ國が臺所である。日本八十五國中の七ヶ國である。州に於ては十分の一であるが。其州中には他宗がある。假りに他宗を半數とすれば丁度全國の二十四分の一に相當する。又耶穌教は熱心であるが。全國僅に三十萬人である。未だ日本人の百六十六分一である。いかに熱心でも數の上で追ひ付きません。此に至りて天理教信者が五千萬人中の四百萬即ち全國民の十二分一を占め。且つ其の信徒が熱心であつて。世人の冷評を耳にも掛けず。常に世人を驚かす處を見れば其の信仰心の厚いことは天理教信徒の右に出るものは恐らくなからう。

一致心強し

天理教徒の集合を見ても天理教のお祭りを見ても。一人不平をいふものなく。よく和合して働くのみか。途中で逢うても丸で兄弟の如く。恰も太

古の民の面影がある。殊に道路修繕とか貧民救済とか。其の他慈善事業に卒先して盡す處は。博愛慈善を説く耶蘇教國に比するも。決して恥づる處はありません。況んや現今の僧侶の如く。只取る事を知つて出す事を知らざる我利々々盲者に較べれば。其の懸隔は果して幾許であらうか。假令口に博愛慈善を言はないでも事實の上に博愛慈善を行つて優に大宗教たる資格を備へてゐる。日本を風靡するものは夫れ天理教か。こいはずるを得ない。

天理教の前途は實に有望といふべきである

ユダヤ教

西洋紀元二千年前丁度今より三千九百年の昔。ヘブライ人の先祖アブラハムといふ人がバビロンの西方ウルといふ地からシリア地方に移轉した頃より始まりシリヤに廣まり埃及に入りニールの河口ゴツセンの地に行はれ埃及國王(即パロ)に悪まれモーゼの手引で漸く逃げ出し紅海を涉りシナイに登り神の十戒を受けてからアラビヤの沙漠にさまよひ四十年の後シリアに入り來り神意政治の一國を立てしが降つて王政となりソロモン王の子レホボアムの不人望より二國に分れユダヤ國イスラエル國となつた此ユダヤ國に行はれたのが即ちユダヤ教といふ宗教で是は一神エホバを尊崇する比較的進歩した宗教だが是はユダヤ人の發明でない遠い昔シバビロン附近にアツカド人が國を立てた彼等は慥に一神教だウルのアブラハムは是を見たのだそれゆゑシリアに移りて一神教を説いたので

感心する所もなんにもないアツカド人からの受賣りだ其後アブラハムの子にイサクありイサクに十二子ありて末子のヨセフが兄弟に惡まれ井戸に投げ込まれ旅人に助けられ埃及に賣られてニール河口のゴッセンに居たこゝへヘブライ人が移つて來て子孫繁殖と共に一神教が盛んになつたので埃及のバロも驚いてさうくこれを迫害する氣になつた元來埃及は多神教で萬物に神が宿つて居ることして牛猫鶴等を尊崇した夫ゆるこれを萬有神教といふ此萬有教と一神教の衝突で迫害の結果がスエス附近の防禦工事を申し附けられたそれに堪へ切れずして逃げ出したのでモーセの逃亡も褒めた咄してない舊約全書の出埃及記も悟つて見れば何でもなし神の十戒も平凡なもので佛教の五戒に能く似て居る併し舊約全書は大著述だこれに基いたユダヤ教には神が遠からず天使を下してユダヤ人を救うて呉れるとあるキリストこれを利用して天使は即ち我れださというたが

ユダヤ人は信用しない故にユダヤ教徒とキリスト教徒と反目した結果がローマの代官ポンテピラトにキリストを訴へ出たそれでキリストが磔になつたのでキリスト信者はユダヤ人を嫌ひて西洋諸國に流浪するユダヤ人の子孫をシユー人種というてこれを殺すのは神の思召しに適つて居ると思ひ今日西洋文明國に於てもユダヤ人を殺すは何でもない世間も余り怪しまない只キリストを神の子と思はんのみで只遠からず眞の天使が下りてユダヤ人を助けると思ふのみで斯んな迫害を蒙つて居る家もなく國もなく各所にさまようて居る何と哀れな人民ではないか宗教の争ひもおそろしいものだ一視同仁を説くキリスト信者でさへシユー人を見る事はこの通りだ早くシユー人種は日本へでも逃げてくればよい西洋人は日本人を野蠻未開の民といふが日本人は宗教位でまさかシユー人を迫害はすまい一視同仁を廣言せないでも宗教の違ひで人は殺さぬ西洋の文明

も此の點を見るに餘り褒めた咄してない一視同仁のキリスト教も何だか物騒な宗教である

キリスト教

此ユダヤ教を本にして起つたものがキリスト教である元來ユダヤ教が國家的なるに反してキリスト教は世界的にやる迄だユダヤ教の神はユダヤ人だけの神であるがキリスト教の神は世界的の神であることゝはキリスト教の方が大きい様に思ふ元來キリストはベツレヘムに生れたれどもナザレ地方に生長したゆゑ人皆ナザレのイエスコいふ父はヨセフといふ叩き大工で母は乙女マリアである此兩人は未だ結婚せざるに早くもマリアは懐妊したソコで精靈が宿つただらうといふ兎に角人間としては叩き大工の子でも其抱負はおそろしいもので自らユダヤの王というた又自ら天使と名乗つて居た儘に精靈に感じた人らしい磔にかゝつてもビクもこしな

いて神よ我を殺しものを慫み玉へといふたコ、は大聖の直打がある併しキリスト教はキリストの働きよりもポロ、ペテロ、ヨハ子の働きで廣まつたのだ初め三百年間が迫害時期で三百二十年頃はローマ人六分の一はキリスト信者であるこれを利用してコンスタンチン帝が遂に天下の政權を握つたそれでキリスト教がローマの國教となつた併しそれ迄には随分苦勞したので子ロ帝トラシアン帝ヂナクレシアン帝アウレリウス帝に至るまで随分キリスト信者を迫害したものだソレでもごうく國教迄漕ぎつけたが是から先が同士打時代でアサナシウスの三位一体説にはアリウスといふ反對者があつたニケーアの結集でアリウスが敗北してゼルマン地方へ流された是が後來宗教改革者がゼルマン地方に起つた原因だそれから子ストリウスが又々三位一体説に反對した結果ペルシアに逃げ込んでペルシアの風俗に合わせてペルシヤ教を起した西紀七百二十六年には偶

像破壊の争亂が起つてローマ僧正グレゴリー一世は東ローマ皇帝レナ三世の命令に背いたことゝでキリスト教が二つに分れ東ローマを中心としてコンスタンチノブル附近に廣まつたのがギリシア正教でローマを中心として伊太利地方に廣がつたのが即ち今のローマ正教である然るにローマ法王レナ三世の時カロロ大帝と結托したのでカロロ大帝の占領したる佛蘭西地方から獨逸西部に廣まつた降て西紀九百六十二年ローマ法王シヨン十二世は神聖ローマ皇帝ヲット大帝と結托したソユで獨逸から澳大利へ廣がつた聖アウグスタンの盡力で英國に廣まつた餘り廣まつて優勢になり過ぎたのでローマ法王が我儘を始めセントペテロ寺を作るため免罪符を賣り出した依てルーテルが反對してナルムス會議となりライプツツヒの公會討論となり西紀千五百二十六年第一回のスピレン會議で漸くルーテル派が公認せられ越えて千五百二十九年第二回のスピレン會議となりこ

ゝて抵抗派といふ一派起る

抵抗派

西紀千五百廿九年第二回のスピレン會議で皇帝の命に反抗したので遂に抵抗派といふ名前を附せられ獨逸一般を風靡して遂に和蘭からスカンヂナビアに行はれた丁抹のクリスチヤン三世はチーデンス會議にルーテル派の新教を容るゝ事としコツペンハーゲンの大會に於て愈々新教を國教と定めた

ギリシヤ正教

この派は北進してロシアに入つた西紀千四百五十三年東ローマが落城してコンスタンチンパレナロガス帝が亂軍中に討死して後帝の妹ソフィアといふものロシア皇帝イバン三世と結婚し二頭鷲の旗は聳引出となりこれよりモスコは第三ローマと稱せられ露帝は代々ギリシア正教の監督

となり今のニコラス二世帝もギリシア正教の監督職である

ユークノー

佛蘭西に行はるゝ新教をユークノーといふ是は獨逸語の盟約より來た名でカルピンの流れを汲む新教だワロシエル城を中心として佛蘭西西部に行はれた

チングリ派

ルーテルと同時代に瑞西にチングリ起り、一層過激の説を立てた耶蘇教の聖餐を虚禮だといふた夫ゆへルーテルと提携が出来ませんでした是又法王に反對した傭兵の事より政治の争ひと混同し、チングリはカツベルで討死した

カルギン派

佛蘭西のカルピンがチングリの後を継ぎゼチバの町へ宗教政府を作つた

大層洗んだ政治であつたがゼチバ僧正を離れサボヤの殿様を離れ一の共和政治を作つたのだから人民喜んで能く治まつた此のカルギン派が英國に渡り軟化したのが監督派となり硬化したのが清教徒となり一層過激になりて分離派となる

英國教會即監督派

カンタベリーの僧正クランマーといふものエドワード六世を助けて英國教會を作り是を英國の國教として祈禱十綱要義四十二章經を用ゐたエリサベタの時三章減じて今や三十九章となる

清教徒

英國教會は純然たる新教に非ず初めルーテルが新説を唱へ初めし時へンリ八世は反對論文を作つた依つて宗教の保護者と言はれた然るに後宮の美人アンボレーンに迷ひこれと結婚せんため本妻カタリナの離縁を主張

したローマ法王之れを拒みしゆるへンリ怒つて反對となりローマ法王を離れて英國教會を起し其子エドワード六世に至りクランマー僧正を用ゐ監督派を大成したの故に儀式は大概舊教だ過激の新教徒これを嫌ひて自ら清教徒と稱へて監督派に反對した

分離派

監督派の舊教臭いのを嫌つて清教徒起りたれども尙ほ監督派が改めざるより過激の連中は監督派より分離したこれ等を總稱して非統一派といふ即ちエリサベタの出したる統一令に反對したからである

長老派 即 副牧師派

蘇蘭の高僧ジョンノックスはカルギン派より出て長老派を開いた此の派は監督の取締を否認し長老即ち副牧師を以て監督するを望むものにて蘇蘭に行はる蘇王メリーは舊教徒なれば常にノックスと反對し屢々ノッ

クスに苦しまられました此派時によりて結社派といふ

エスイタ派

西班牙のロヨラは初め軍人であつてパンペルナの戦に片足斬られ病牀に在つて聖書を繙き跛となりて後エルサレムに巡禮し歸つてパリの大學に入りビレチー山下のサビエルに生れ其名をサビエルといふ豪傑を得て舊教維持のためエスイタ派を起し西紀千五百四十年ローマ法王ウルバンの許可を得て青年養成と外國布教とローマ法王に絶体的服従と此の三ヶ條を看板に掲げ千五百四十二年にはサビエル印度に入り布教七年にして千五百四十九年遂に日本の平戸に來り又々七年日本に布教し夫より一日印度に戻り再び支那に入らんとして瑪港の西の三竈島に東洋使徒の美名を留めた元來日本へ手引して來たのは薩摩の少年某といふもので嘗て人を殺して印度のゴアに出奔しそれがサビエルに隨ひ洗禮を受けアンゼロと

いふクリスチアンチームを貰ひ先導して来たから薩摩へ着たのだ然るにサビエル島津氏に不平ありて遂に肥前の平戸に入つたといふ或はアンゼロは阿波の少年里見勘四郎といふものだとも言ふ兎に角日本人が手引して来て薩摩肥前等を経て京都へ上つたのだ長崎の天門寺安土の大成寺京都四條の南蠻寺等が其時出来たキリスト教の寺だ重なる信者は九州の大友宗麟有馬義純大村純忠近畿で織田信長蒲生氏郷小西行长高山友祥志摩の内藤如安等であつた實は外人は日本を取る精神なくも日本の豪傑連は彼等を利用して日本を取らんごしたるは事實かも知れぬ秀吉の様な大量の殿様でも遂にヤソ教の禁令を出した最後の火花が島原騒動で板倉内膳も討死した此戦争の有様から見るに或は日本を取る氣であつたらう恐るべきは當時のキリスト教である

クエーカー派

世間の儀文儀式に流るゝを嫌ひ只黙禱する宗教である故に英國教會の迫害を受けウヰルアムペンゴいふもの首唱者となり父が英王カロロ二世に貸金ありしを催促して其の代償としてペンシルバニアを得西紀千六百八十六年移住し自由に神を信仰するを得ました

ベネチクト派

聖ベネチクトといふ伊太利の高僧がカンパニアの山上に開いたので肉食妻帯を禁じて難行苦行をする派である

フランシスカン派

聖フランシスは以太利の人で初め豪奢を事とし武士道を練習したが病にかかりて心機一轉し聖書の教へに従ひ貧賤に甘んじ同志を集めて僧庵の法に随ひダンスコットの説に據つて立てたる宗教である

ドミニカン派

希臘の聖師ドミニコより起り異教徒の改宗に熱中する教へて説教効なき時は宗教裁判を開きドシ〜人を處分する教へである其大綱はトーマスアキヌスの説に資る

以上新教は信仰の自由から起つたものゆゑ少しの意見の差で分裂するので其の他は牧擧に違あらぬ程である

パール教

セム人種の間に行はるゝ宗教で日月尊崇の極人身御供を獻ずる事ある随分慘酷な宗教であります多分ユーフラト河邊に行はれたもので有りませう彼のバビロンといふはパール神の居所といふ意で彼のアツスル神の居所をアツシリヤといふと寧ろ同意味と思はれる

予ストリウス派即景教

コンスタンチノブルの僧正予ストリウスが三位一体論を否認したる所より國人に追はれてペルシアに入り來りペルシア人の風俗に随ひてペルシア教を起し支那唐代に入りて彼斯教といふ遂に變じて大秦景教といふに至り唐の徳宗時代長安大秦寺の僧景淨といふもの一碑を立て大秦景教流行中國碑といふ此碑は唐の武宗の頃迫害を受けて土中に埋められたものが明末に至つて發掘せられたので此の碑で景教の流行した事が分る

ゾラスタ教即祇教

バクトリアの聖人ゾラスタといふもの西紀八百年前即ち今より二千七百年前中央アジアのアラル湖附近バクトリアの地に唱へ始める宗教でありまして陰陽兩神を立てゝ教へる所から一神教に對して二神教といひます

是がペルシアに這入つてマギ教と混和し陽を現はすために火を崇拜するより或はこれを拜火教といひます是が支那に入つて祭天の義にて祆教といひました

マホメツト教即回教

前にもいふ如くアラビヤの西部にメツカ、メヂナといふ二つの都があるそのメツカのカバー神社の神主の子にマホメツトといふ人傑がありまた親が死して叔父に身代を取られ貧困の餘り商隊に加はりシリア地方に行つてはヤソ教を聞きかちり印度地方へ行つては佛教を聞きかちりこれを折衷してよき處を取り西紀六百二十二年即ち今より千二百八十餘年前アラビヤ西部に唱へ初めた教へである全体此教へは經文租税劍戟の三つを以て布教したるので即ち此教を信ずるか然らざれば租税を納むるか此二つがいやならば劍で來いといふやり口だソレ故四方に軍をした教祖死

して二年目にダマスクを陥れ、後三年にしてエルサレムを陥れ、全年ペルシ
ア國の都クテシフチンを陥れた。それからアフリカ北岸を取り、スペインへ
渡り、西紀七百三十二年にはフランス南部に攻め入り、ツールの戦でカロロ
鐵槌と戦つた。是が教祖死して百年目である。何と甚しい廣まり方ではあり
ません。然るにシヤ一派とスンナ派といふ二派に分れた。シヤ一派は系統
を重んずる方で、マホメットの女婿アリーの相續を主張する方で、スンナ派
は法燈に據るべしと主張したので、アブベクル、チーマルの相續を主張し
た。故にアリーはスンナ派のマーヤーに殺されたが、マーヤーの子孫はマホ
メットの叔父アブベシルといふものに殺された。此の時、マーヤーの殘黨ア
ブツラマンは西班牙へ逃げて、西紀七百五十五年、コルドバ朝を立てた。又ア
ツバエの子孫はナグリス河上のバグダットに移り、大に文學を奨励した。か
らこれよりコルドバ朝とバグダット朝は東西文化の中心點となつた。今で

もマホメツト教は埃及附近から中央アジア一面に行はれ支那に入つては天山南路に廣がり印度に入りては婆羅門教と混合して今の所謂印度教となつた印度の人口三億萬の内二億萬は印度教である然らば印度は佛教國でない回教國といつても差支ない今やペルシア邊は回教のシヤ一派でサマルカンド地方はスンナ派である何れも教祖マホメツトの遺鉢を繼いで居る

喇嘛教

西藏地方に喇嘛といふ宗教がある是は佛教から分れたもので昔は印度の北方烏菴國に巴特瑪撒巴々といふ僧侶ありて此の人西藏に入りて其の人氣に合せ無上の意を取りて喇嘛教を開いたのだそれが今を去る六百余年前忽必烈汗（弘安四年に日本に寇した元の世祖）といふもの西藏へ攻め入り喇嘛の先達扮底達を説き付け自ら喇嘛教に入り政畧を以て更に血ぬ

らずして西藏を取り喇嘛八思巴を帝師と仰いだそれより喇嘛教蒙古に入りて遂に元の國教となつた當時の詔勅にかう言ふ語がある凡ソ喇嘛僧ヲ打ツモノハ其手ヲ切り喇嘛僧ヲ罵ルモノハ其舌ヲ抜クとある一時此の如き勢力となつたが餘り保護が厚かつた結果僧侶が墮落して不品行となつたソコで明時代に宗喀巴といふ高僧が出て丁度キリスト教のルーテルの役を勤めて漸く喇嘛教の改革をした舊派は紅衣紅帽であるが宗喀巴の派は黄衣黄帽であるこれより紅教喇嘛黄教喇嘛と呼ぶ紅教の方は加持祈禱のみ専らとするが黄教の方は布教のみである此宗喀巴の弟子に達賴班禪といふ二人の高足があつた達賴は拉薩に居て班禪はタシルンボに居た元來黄教は妻帯せぬ依りて化身轉生というて死に臨んで遺言して今より何日目に何の方角に當て凡そ何里の地に生れ替ると教へる弟子共其の日を待つて其の地方に生れた子を取り喇嘛の化身としてこれを立てるこれが

黄教喇嘛の相續法だ今でも喇嘛の貫主といふものは大勢力で北京朝廷では腫れ物に觸る様にして居る

佛 教

釋迦の入滅の年代に十四種の説があるが凡そ西紀前四百八十年とし今を去ること二千五百年前瞿曇悉達の起した宗教で彼れは印度の恒河附近のカピラ城主首頭壇那（淨飯王）といふ小國王の太子である今や一般に釋迦牟尼といふが元來釋迦といふは種族の名にして決して悉達一人の名でない八ヶ間しく言へば普通名詞で悉達一人の固有名詞でないが假りに分り易く釋迦と申しませう元來釋迦が佛教を唱へたのは或る一方から言へば四苦八苦とか其の他の煩惱を解脱するためであらうが他方から見れば政畧上である由來印度の國には土着のドラギド人といふがある今デツカシ半島の南端に押しつめられて有る（丁度支那の苗人種が貴州方面に押し

しつられ日本のアイヌが日高地方に居る如く、これを押しつけた人種は
アリア人種にて今のカブールの谷から来たものだ夫ゆる西洋人はカブ
ールの谷をアリアンゲートと申ます此アリア派が三つに分れ婆羅門
刹止利、吠舍、となりそれに首陀羅即ちドラビド人を加へて四種の階級
になつて居る丁度日本で士農工商といふた如く婆羅門は僧族にて宗教學
術醫術を司り刹止利は武士族にて軍事政治を司り吠舍は平民族にて農工
商を司り首陀羅は奴隸族にて賤役を司つたものだ斯く宗教醫行を始め學
術智識の方面は婆羅門の占有に歸した處から摩奴の法典等勝手な法律を
作り婆羅門は梵天の口より生れ刹止利は梵天の脇より生れ吠舍は臍より
生れ首陀羅は足より生れたりして他の三種姓を輕蔑したから刹止利派即
ち武士族中から瞿曇悉達といふ不平家起りて四民平等を叫んだものだ其
の方便として宗教を起したもので全く政界から割り出したものだ而も此

宗教も悉達一人の發明でない婆羅門九十五派中から折衷したもので丁度
 周公召公禹湯文武の教へを孔子が綜合して儒教と名づけたる如く濼洛關
 閩の學を朱熹が取捨して南宋性理の學となしたる如くキリストがユダヤ
 教を敷衍して世界的となしたる如くマホメットが佛教ヤソ教を混合して
 回教と名づけたる如く何れも一人一個の仕事でない耶蘇も孔子も朱子も
 マホメットも只折衷取捨したただけである決して其の教を發明した譯でな
 い釋迦が佛教を開いたも其の通りで只九十五派ある婆羅門教より取捨折
 衷して佛教とした迄だ彼の壇特山に入りて仙人に學んだといふも婆羅門
 の先達に弟子入した事だ其の他釋迦は摩耶夫人の脇より生れたといふ事
 は釋迦種は刹止利族で梵天の脇より生れたといふ摩奴の法典から取つた
 ものだ丁度キリストを精靈が宿つたといふ事と同じ事だ其の人を神靈にせ
 んたための方便である新約全書も釋迦入相記も爲めにする處ありて書いた

ものだこんな有様で釋迦の教へはブラマに反對するため平等無差別を説
 いたのだ故に刹止利以下三人種は忽ちこれに雷同したので殊にモリヤ朝
 の旃陀羅笈多是首陀羅より下のチアンドラから起つたものだ平等無差別
 は我が身分を胡魔化するに都合がよいから方便の上から信仰したものだ殊
 に笈多の孫阿輪迦といふ王は佛教を國教として四方に傳道師を出し第三
 回の佛教大會を開いたこれを阿輪迦の結集といひます去れば佛教はお釋
 迦の有り難味よりは寧ろ阿輪迦の方便によりて廣がつたもので丁度耶
 蘇教がキリストの力より寧ろポーロの盡力によりて廣がつたと同じ事だ
 其の證據には阿輪迦死して其子マヒンダラに至りて俄かに衰へ印度は忽
 ち婆羅門の世となりマヒンダラは其の姉サンカミットと共に錫蘭に渡り
 て僅に佛教の餘命を保つた其の後大月氏の迦膩色迦王が第四回の結集を
 罽賓に開くや印度地方より馬鳴(龍樹)世友世親等が參加してパリ語即

ちマカダの方言で書いて有つたお經の文句をサンスクリット即ち梵語に翻譯したので茲に大乘小乗が分れセーロンに行はれたのが小乗佛教で今尙ほシヤムロビルマ地方に行はれる俗に南方佛教といふのだ大月氏から支那に入り日本に來たのが北方佛教と唱へて大乘教だ其の傳播の順序を言へば後漢の明帝が蔡愔を大月氏につかはし西域の僧攝摩騰、竺法蘭を得て白馬に經卷を貢はせ洛陽に戻り白馬寺を建て、佛教の翻譯をしたのが本で此翻譯終るご共に原書即ち梵語の佛書は大抵これを焼き盡したといふ此く印度より大月氏に入りパリー語化して梵語となり又大月氏より後漢に入り梵語化して漢語となる斯く轉々する間に佛教本來の主意は多少ごころか大部分違つて來た今後マカダの古代語を解するものが出て初めて佛教の本旨が知れるのだ知れた曉にはキツト違つて居る何故と言へば悉達其人は政畧のために佛教を説いたのでそれを後人が宗教一點張り

ごし梵語と變じ漢語と化し翻譯終るご共に原書を焼いたなごは愈々以て怪しい處がある假令其後宋雲法顯玄奘義淨が出て直接印度に入り玄奘は六百餘部の經典を得義淨が四百餘部の經典を携へ歸りこれを翻譯して新譯佛教を出すも固より釋迦牟尼の直傳でないから是れも決して當てにはならぬ丁度西洋でヘブライの聖書が希臘に入りてギリシア語となり羅馬に入りてラテン語となりルーテル翻譯してドイツ語となりレヘブル翻譯してフレンチとなりウヰクリツフ反譯して英語となつた様なもので其轉々の間に大部分變更して行く見玉へローマ法王の説くキリスト教はロイヒリン、エラスムス、トーマスモーア、フツテン等の古學者が出てヘブライ語と對照すると非常の相違が見された彼のルーテルの九十五條の批難文は慥に九十五條の相違のある事が分る此筆法で押して來れば日本今日の佛教なども印度に起り大月氏に入り支那に傳はり百濟に來り遂

に日本に渡つたもので仲次所が三ヶ所もある決して悉達の教へのみでない況んや日本に入りてからも變更した證據がある日本に這入つたのが欽明天皇十三年で西洋紀元で五百五十二年で東ローマのユスチニアンの時だ今を去る事千三百五十七年前である夫から馬子や聖徳太子が熱心に佛敎を唱道したけれども都の外へは少しも廣まらぬ何故此の如く手間取つたかこいふに是れ正しく日本の國体に合はんからである即ち天皇といふ尊いものゝある中へ尙ほ天皇より上に佛陀を置くからである殊に因果應報の説は日本固有の尙武心に合はんからである合ひさへすればモツト早く廣まる見玉へ應神天皇の朝に儒敎入り来るや仁徳天皇の朝には已に行はれた是れ日本に儒敎といふ名はなくとも儒敎同様の精神はあつたのだそれで儒敎と結びついて俗に神ながらの道が出来た然るに佛敎が此の如く都の外へ行はれなかつたは全く日本固有の精神と合はないからである

眞後聖武天皇の朝即ち西暦七百二十餘年丁度佛敎渡來より百七十年後行基出で、神佛同体論を立て神も佛も同一なりと説き上には聖武天皇光明皇后が熱心に佛敎を信仰なされてもまだ、諸國へは廣まりません其の後嵯峨天皇の朝即ち西紀八百十餘年佛敎渡來後二百六十年後に弘法大師傳敎大師出で、本地垂迹といふ不可思議の議論を持ち出し印度の佛も日本神も其根原は同一にして印度の神が日本の國へ權りに姿を現はしたものだと言いたそれで日本にも神佛混淆の頃は東照大權現とか大山石尊大權現とか權現の名が澤山あつた其の他印度の毘盧舍那は支那で光明遍照となり日本で天照すこなる途方途徹もなき牽強附會説を出し大日如来は天照大神だ武甕槌は摩利支天だ大國主は大黒天だなごゝごうゝ神佛をゴチャクゝにして當時無學の人民を迷はせてしまつた是れ佛敎渡來より二百六十年目頃である併し弘法大師の策畧が當つて夫れから佛敎が

盛んになり奈良朝に於ては六宗と言つて下の如き宗別が出来た

三論宗

龍樹即ち馬鳴の中論十二門論提婆の百論この三論によつて立てたものゆゑこれを三論と申します推古天皇の三十二年目に高麗から惠灌といふ高僧が來ました此の人は隋に入つて三論の大祖吉藏に就いて學んだもので我が日本の三論宗の祖である併し百濟の觀勒の如きはこれより古き三論宗の僧侶であるが日本に來ては三論を講ぜなかつたから惠灌を以て三論の祖とするのである

法相宗

諸法の性相を決判するよりこれを法相宗といふこ此の宗は三論について古いもので孝徳天皇白雉四年學問僧道昭唐に往き玄奘三藏に就いて法相を學んだゆゑこれを法相の第一傳とし智通智達を第二傳となし智鳳智

鸞を第三傳とします其後、防道鏡の如き何れも法相の高僧なれども共に内道場に入つて我儘を働き大に日本の歴史を汚しました

俱舍宗

俱舍は世親の俱舍論に起り小乗教で行學する人が少かつた

成實宗

訶梨跋摩の成實論に起り三論法相に屬する小乗教で別に寺は置きませんでした

華嚴宗

聖武天皇の天平八年唐僧道璿が始めて華嚴經の章疏を持て歸化しました其の講演を始めたは天平十二年に良辨和尚が新羅の審祥に請うて講演させたが初めて此の審祥は唐に入つて法藏に隨つて研究した人だといふ

律宗

孝謙天皇の天平勝寶五年唐僧鑒眞歸化したに依り勅して戒壇を東大寺に設けて授戒せしめたが始めて筑紫の觀音寺下野の藥師寺にも戒壇を供へこれて日本三戒壇ご申しました後に近江の園城寺に戒壇を供へた時は僧侶社會の一問題ごなりましたが兎に角日本四戒壇ごなりて東國の人は下野の藥師寺近畿地方のものは奈良の東大寺或は園城寺西國のものは筑紫の觀音寺で授戒する事ご定めました何の宗旨にも戒法はあるが此の派は専ら四分律等の書に依つて戒律を主とする故律宗ご申しました以上六つを奈良朝の六宗ご申しましてこれに天台宗眞言宗を加へて佛教八宗ご申しました

天台宗

桓武天皇の延暦年間丁度今より千百年前近江出身の最澄といふ僧が唐に入つて天台山に登り道邃に隨うて教法を受け歸つて比叡山に一寺を創めた依つて此の派を天台宗といひ延暦年中に出來たから寺を延暦寺といひ王城鎮護の道場ごなりて京都の鬼門を鎮めて居りました其の弟子圓仁は在唐十年歸つて天台の座主ごなり朝廷の尊信篤くして最澄は傳教大師圓仁は慈覺大師ご謚せられ良源即ち元三大師に至つて末世護法のためごて僧兵を養ひ是より國家に害毒を流し白河法皇は三不如意の一に數へ日吉の神輿は常に朝廷を惱ませました天正年中に入りて淺井朝倉に黨し織田信長に反對したので姉川の戦争後信長に焼き仆され是より天台は衰へました

眞言宗

讚岐出身の高僧空海といふもの最澄ご前後して入唐し留學三年歸つて東

寺を開き後に高野山金剛峯寺を開いた此の宗は大日經の眞言經を所依とする故眞言宗と言つたとか其の教へは秘密を主として一に密教と唱へます依つて他の派を顯教といつてこれと分けます顯教は釋迦の教へなれども密教は大日如來の自説に據るこいふ死して弘法大師と謚せられて十大師中第一の大師となりました惜む所は山氣が過ぎたるにあるも成効したのも又此山氣ある故であります今では大師様と言へば弘法大師と早合點するに至りました

眞言新義

鳥羽天皇の御世覺鑊といふ僧金剛峯寺の畔りに傳法院を立て眞言新義を唱へたれば金剛峯寺の僧これを悪み覺鑊死して後傳法院を焼いた依つて傳法院の徒紀州根來に移り本寺高野山と長らく反目しました

融通念佛宗

鳥羽天皇の朝良忍といふもの大原山に來迎院を設け諸人同音に念佛せしめた是を融通念佛宗といひます良忍の死後中絶したるを後醍醐天皇の朝法明といふもの攝津深江村に再興しました

平安朝は天下太平優柔不斷に世を送りしゆる天台眞言の如き意味深長な高尚な宗教も行はれましたが降つて源平時代に至りては争亂多く武士は文事を捨てて武事を事とし宗教などを研究する餘地なく天台眞言の如きは行はれずなりて時好に應じて簡易なる宗教が鎌倉時代に入つて澤山起りました

淨土宗

高倉天皇の御世に法然坊源空といふ僧極樂淨土に往生する目的にて淨土宗といふ一派を立てました當時は戦争で屍を戰場に晒すもの多く淨土宗の如き未來の佛果を望むもの却つて信仰するもの増加したから興福寺の

僧徒これを悪んで朝廷に強訴して法然を土佐に流しました後許されて京の智恩院を開いた

淨土眞宗 或は眞宗。一向宗

後堀河天皇の朝源空の弟子親鸞上人の勸むる所にして一向に彌陀の名號を唱へ他力によりて本願を果すを教へた斯く一向に彌陀の名號を唱ふるより俗にこれを一向宗と言ひます又専ら念佛を修するゆへ専修念佛宗畧して専念宗といひます此の派は肉食妻帯を許し子孫相續と定むる故に今日も東西兩本願寺の法主は親鸞上人の系統であります其の教法は蓮如上人に至つて一變し丸でキリスト教と髣髴のものとなりました

- 第一 耶蘇教はゴットを信じ 眞宗は阿彌陀を信ず
- 第二 共に一神教にして他力本願であります
- 第三 耶蘇教は聖書を誦し 眞宗はお文を讀む

第四 ヤソ教は信施袋を廻し 眞宗は賽錢袋を廻す

第五 ヤソ教は人家稠密の中に教會を立て 眞宗も寺院を市中に建てます

其の他肉食妻帯といひ子孫相續といひ教育を重んずる處説教を主とする處丸でヤソ教と同一であります故に口さかなき都童へは蓮如上人は漢譯の舊譯全書を得てこれより教義を一變したといひ或は西本願寺の相續璽は金函に入れたる舊譯全書ならんと言ひます兎に角信仰の厚きは此の宗にして尾濃三勢加能越は兩本願寺の臺所同様で法主の巡錫に隨喜の泪を流すものが多し

只惜いことは生佛の直段が僅に正三位伯爵といふ値打しかないことである

臨濟宗

不立文字教外別傳直指人心見性成佛是れが禪宗の表題で釋迦が無言で心を以て門人迦葉の心に傳へたといふに起り榮西禪師入宋して南宗の禪を學びました歸つて建仁寺を建て臨濟宗を開きましたこれより我の國に傳わる禪宗は皆南宗のみで鎌倉時代に鎌倉五山起り室町時代に京五山起る其の寺名は 鎌倉五山は建長寺 圓覺寺 壽福寺 淨智寺 淨明寺 京五山は 天龍寺 相國寺 東福寺 建仁寺 萬壽寺と定め其上に南禪寺を置く

曹洞宗

後堀河天皇の朝道元といふもの宋に趣きて曹洞宗を學び歸朝後永平寺を開き總持寺に隱居しました今や永平寺と總持寺の本山争ひは遂に騷動宗と冷評せられるに至つた兎に角臨濟宗と曹洞宗は大悟徹底を主とする教へである故に臨濟の一休曹洞の白隱の如き磊落不羈の高僧を出した

法華宗

日蓮上人は安房の小湊に生れ貫名重忠といふ漁師の子である夫ゆる我は首陀羅の子なりと隠さず名乗つた處は太したものだ然し四個の格言というて眞言亡國律國賊念佛無間禪天魔とは隨分思ひ切つた悪口だ夫ゆる世間から悪まれた殊に眞宗と仲が悪るく

夕立や法華飛び込む阿彌陀堂 此は自力と他力の配合が妙だ予の友人に武田といふ高僧がある追つて身延山の管長になるであらう此の人或時予に語つて言ふやうは

日蓮宗ハ軍國ノ宗教ダ南無妙法蓮華經デ足並ヲ揃ヘ團扇大鼓デ拍子ヲ取り鐵炮擔イデ進ム事ヲ得ルト 立正安國論を説いた日蓮の氣焰今に至りて衰へませむ

時宗

後宇多天皇の御世に一遍坊智真といふ伊豫の河野の一族から出た高僧が
 ありました相摸の藤澤に清浄光寺を建てました世間でこれを遊行寺とい
 ひ住持を遊行上人といふのは凡そ此寺の職住となれば南無阿彌陀佛決定
 往定六十萬人の十四字のお札を作りこれを衆人に附與して天下を遊行す
 るからである融通を主とする處は良忍和尚に倣ひ踊念佛をするは空也に
 倣ふのだ

黄檗宗

承應三年八月明國福州の僧隆琦といふものが長崎に來たが彼れ戒行謹嚴
 な所から大に諸人の信仰を受け隠元禪師と稱して名聲大に高く遂に宇治
 に黄檗山を開きました是も禪宗の一派であります徳川時代に起つた宗旨
 は是がウツタ一つであります此の外普化宗や日蓮宗の不受不施派の事は
 暫くお預りご致します

中西半郎先生著

新天理教顯眞論

代價金參拾五錢 (郵税六錢)

新天理教御教祖御實傳

附御本席飯降伊藤先生略傳

代價金參拾錢 (郵税六錢)

神國大道

正價金七錢 (郵税貳錢)

明治三十五年九月新版

必携職天理教祝詞文例 全

附類句集 正價金參拾錢 (郵税四錢)

天理教問答 布教之柱石

一名教職の正宗 正價金拾貳錢 (郵税貳錢)

佛神儒 天理教討論演說

一名布教所家の玉手箱 正價金貳拾五錢 (郵税四錢)

弊店發賣の書籍は誠實廉價を以て販賣仕候又一時持合無之節は迅速に取寄せ御渡し可申候尙遊
 路と雖端書にて御注文次第早速送附申上候

但し爲替御送金は拂渡局を大和三島郵便受取所宛、切手代用は一割増
 大和國山邊郡丹波市町大字三島 天理教會御本部門前

天理教會 諸天理教校

御用達

發行大賣捌

木下眞進堂

本部發行

神徳

正價金五拾錢 (郵税六錢)

天理教御開祖眞實の御話 前後

正價金參拾錢 (郵税六錢)

中西半郎著

一宗 教談

一名天理教の研究 正價金參拾錢 (郵税四錢)

井上清一著

一御道の御話 上中

正價金參拾錢 (郵税四錢)

名波數術著

一御神樂歌釋義

正價金拾七錢 (郵税四錢)

其他天理教校教書類文房具並に墨筆精々安價
 に販賣可仕候に付各國諸君此の廣告御覽の上
 御注文あらんことを願ふ

後字多天皇の御世に一遍坊智眞といふ伊豫の河野の一族から出た高僧が
 ありました相摸の藤澤に清浄光寺を建てました世間でこれを遊行寺とい
 ひ住持を遊行上人といふのは凡そ此寺の職住となれば南無阿彌陀佛決定
 往定六十萬人の十四字のお札を作りこれを衆人に附與して天下を遊行す
 るからである融通を主とする處は良忍和尚に倣ひ踊念佛をするは空也に
 倣ふのだ

黄檗宗

承應三年八月明國福州の僧隆琦といふものが長崎に來たが彼れ戒行謹嚴
 な所から大に諸人の信仰を受け隱元禪師と稱して名聲大に高く遂に宇治
 に黄檗山を開きました是も禪宗の一派であります徳川時代に起つた宗旨
 は是がタツタ一つであります此の外普化宗や日蓮宗の不受不施派の事は
 暫くお預りご致します

中西牛郎先生著

新版 天理教 顯眞論

代價金參拾五錢 (郵税六錢)

新版 天理教 御教祖御實傳

附御本席飯降伊藏先生略傳

代價金參拾錢 (郵税六錢)

神國 大道

正價金七錢 (郵税貳錢)

明治三十五年九月新版

必携 天理教 祝詞文例 全

附類句集 正價金參拾錢 (郵税四錢)

問答 天理教 布教之柱石

一名教職の正宗 正價金拾貳錢 (郵税貳錢)

神儒 天理教 討論演說

一名布教所家の玉手箱 正價金貳拾五錢 (郵税四錢)

弊店發賣の書籍は誠實廉價を以て販賣仕候又一時持合無之節は迅速に取寄せ御渡し可申候尙遠
 路と雖端書にて御注文次第早速送附申上候

天理教會 御用達

發行大賣捌 木下眞進堂

本部發行

神徳 記 全

正價金五拾錢 (郵税六錢)

天理教 眞實の御話 前後

正價金參拾錢 (郵税六錢)

中西牛郎著

一宗 教談

一名天理教の研究 正價金參拾錢 (郵税四錢)

井上清一著

一御道の御話 上中

正價金參拾錢 (郵税四錢)

名波數衛著

一御神樂歌釋義 正價金拾七錢 (郵税四錢)

其他天理教校教書類文房具並に墨筆精々安價
 に販賣可仕候に付各國諸君此の廣告御覽の上
 御注文あらんことを願ふ

廣告

故御本席飯降伊藏翁
葬祭景况ノ寫眞

コロタイフ版輪廓付舶來アイボン用紙印
刷縦一尺二寸横一尺三寸額面用
四枚一組金六拾錢 (郵稅共)

右御用命下され候は、早速郵送可仕候

必携 神道布教規範

特別正價金七錢 (郵稅四錢)

文學博士黒川眞頼大人序

古事記 義 全參冊

特別實價金七拾錢 (郵稅拾六錢)

贈正四位神道大家平田爲胤大人題字
樞密顧問官子爵海江田信義公題

祝詞 式 義 全貳冊

特別實價金五拾五錢 (郵稅八錢)

文學博士中村清矩大人序

職原抄 義 全貳冊

特別實價金五拾五錢 (郵稅八錢)

故大勳位久邇宮朝彦親王殿下御題
古語拾遺講義 全壹冊

尊神家 必携 大教宣布詔書義解 勅語 全壹冊

特別正價金七錢 (郵稅四錢)

尊神家 必携 三條教大憲義解 全壹冊

特別正價金六錢 (郵稅貳錢)

唯日本 神道天理教大意 全壹冊

特別正價金四錢 (郵稅貳錢)

天理教 教話 全壹冊

特別正價金貳拾五錢 (郵稅六錢)

御教祖御一代記 全壹冊

特別安價金拾八錢 (郵稅四錢)

天理伊呂波歌 全壹冊

特別安價金四錢 (郵稅貳錢)

○明治三十九年十二月新版

各天理教會所在地明細簿

特別安價金卅錢 (郵稅四錢)

天理救助參考書

明治四拾貳年二月七日印刷
同 年同月十二日發行

定價金拾八錢

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島

編輯兼 發行人 木下松太郎

大阪市南區鰻谷東之丁百七十五番屋敷

印刷者 前田菊松

大阪市南區鰻谷東之丁百七十五番屋敷

印刷所 合資會社 周成舍

廣告

故御本席飯降伊藏翁

葬祭景況ノ寫眞
刷幅一尺二寸横一尺三寸額面用
四枚組金六拾錢 (郵稅共)

右御用命下され候は、早速郵送可仕候

必携 神道布教規範

特別正價金七錢 (郵稅四錢)

文學博士黒川頼大人序

古事記 義 全巻冊

特別正價金七拾錢 (郵稅拾六錢)

正四位神道大家平田篤胤大人題字

祝詞 式 義 全巻冊

特別正價金五拾五錢 (郵稅八錢)

文學博士中村清知大人序

職原抄 義 全巻冊

特別正價金五拾五錢 (郵稅八錢)

故大御位久邇宮朝彦親王殿下御題

古語抄 義 全巻冊

神家 大教宣布詔書義解 勅語 全巻冊
特別正價金七錢 (郵稅四錢)

神家 三條教大憲義解 全巻冊
特別正價金六錢 (郵稅貳錢)

日本 神道天理教大憲 全巻冊
特別正價金四錢 (郵稅貳錢)

天理教 教話 全巻冊
特別正價金貳拾五錢 (郵稅六錢)

天理教 祖御一代記 全巻冊
特別正價金拾八錢 (郵稅四錢)

天理 伊呂波歌 全巻冊
特別正價金四錢 (郵稅貳錢)

○明治三十九年十二月新版
各天理教會所在地明細簿
特別正價金拾五錢 (郵稅四錢)

天理救助參考書

明治四拾貳年二月七日印刷
同 年同月十二日發行

定價金拾八錢

奈良縣山邊郡丹波市町大字三島

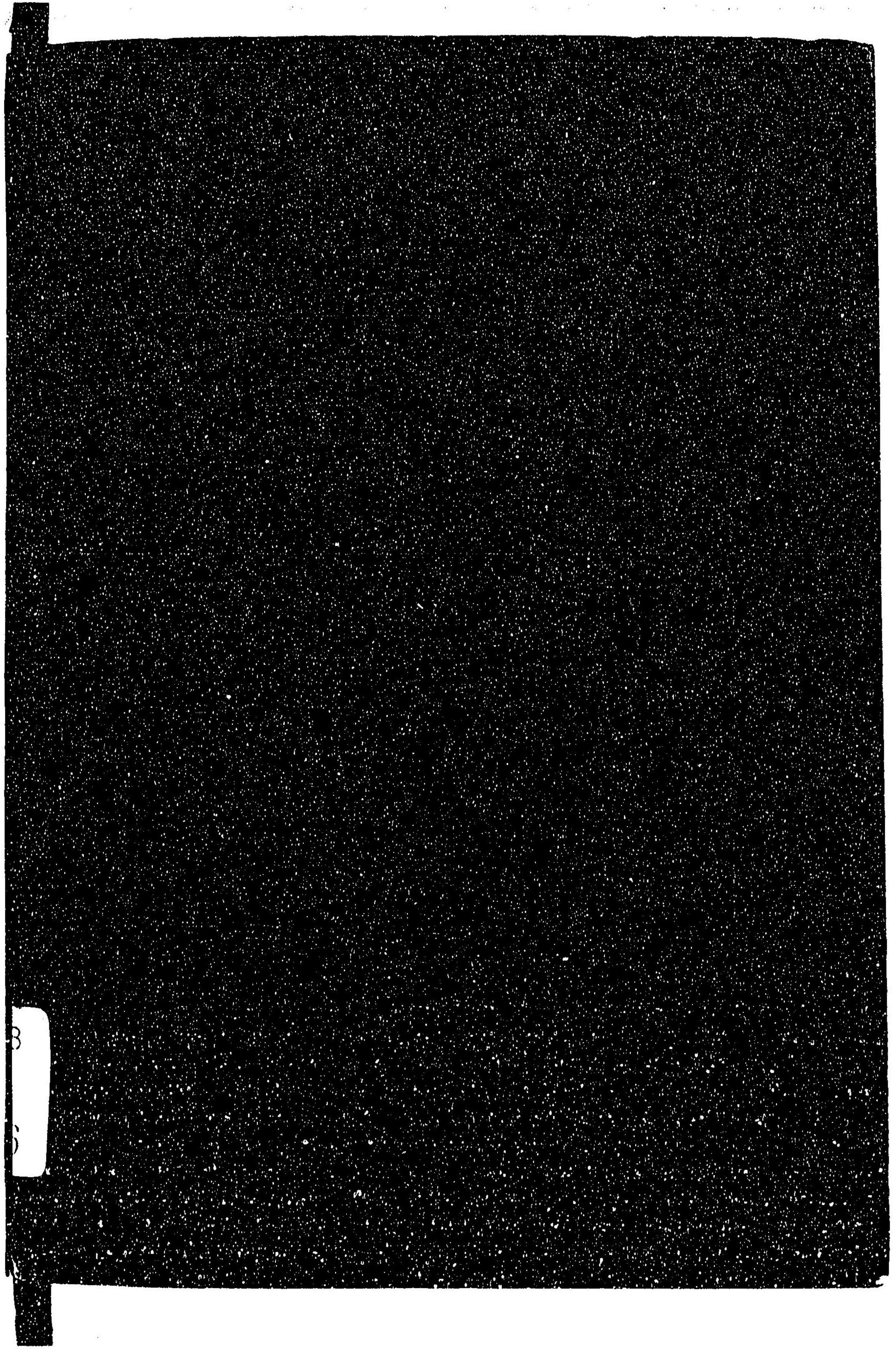
編輯兼 發行人 木下松太郎

大阪市南區鰻谷東之丁百七十五番屋敷

印刷者 前田菊松

大阪市南區鰻谷東之丁百七十五番屋敷

印刷所 合資會社 周成舍



3
5

013647-000-2

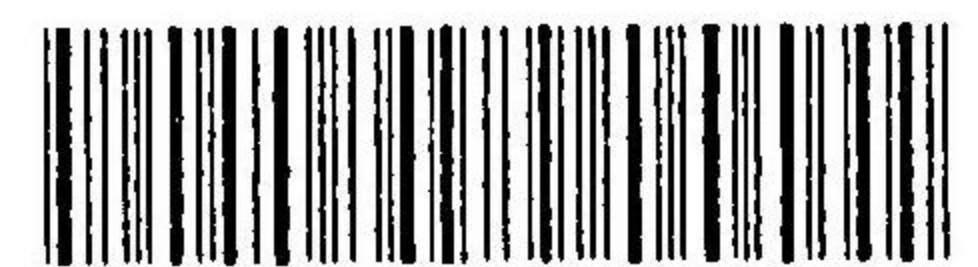
特18-706

宗教早分り

晁水 道人/著

M42

ABA-0116



特